

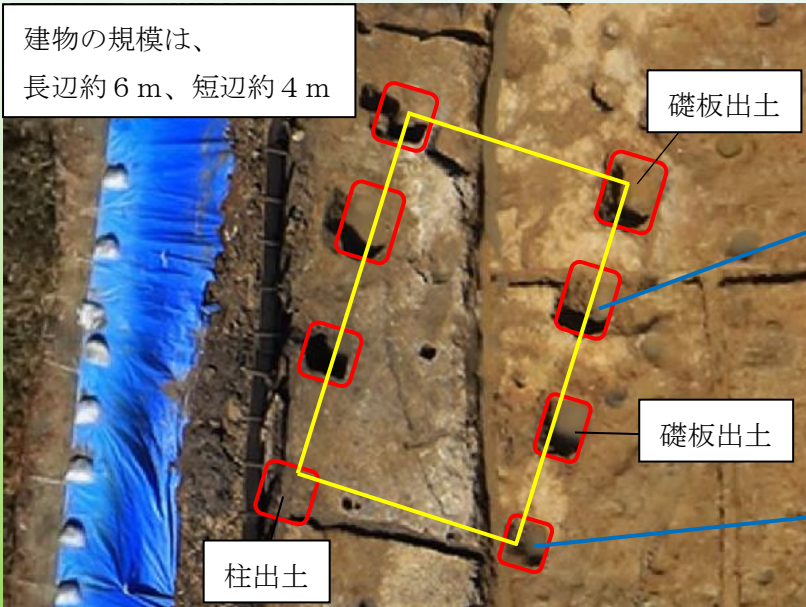
- 木製品から野際遺跡での生活が明らかに!!  
..... P1~2
- 展示・イベント情報 ..... P3
- 埋蔵文化財センター展示品紹介 第2回 ..... P4
- 『かつて見付にあった大寺院 蓮光寺』  
森本司 ..... P4



# 木製品から野際遺跡での生活が明らかに!!



令和2・3年度に東部幼稚園園舎建替えに伴い、東貝塚地内の野際遺跡発掘調査を実施しました。この調査では、古墳時代前期を中心とするムラの跡が発掘されました。現地調査の成果は以前、文化財だより第195（令和3年6月号）、208号（令和4年7月号）で報告しましたが、今回は今年度よりおこなっている発掘調査報告書刊行に向けた出土品の整理作業の内の木製品に関わる事柄について報告します。



古墳時代中期初めの掘立柱建物跡【上空より撮影】  
(赤：柱穴、黄：柱の並びを示す)



礎板



柱の根元

## 木製品の出土状況

磐田原台地南端の低湿地に面して立地する野際遺跡の調査では、多量の土器や石器が出土している他、鋤<sup>すき</sup>や田舟、椀などの木製品も出土しています。高温多湿の気候で酸性土壌の日本列島では、一般的に遺跡から木などの有機物が出土することは多くありませんが、当遺跡では泥にパックされた状態で多くの木製品が出土し、道具の種類の特定制などを通して当時の人たちの生活の実態に迫ることができます。

野際遺跡では木製の道具の他に、柱の根元や礎板も見つかっています。上の写真は、今回の調査で見つかった掘立柱建物跡の中で最大の規模のものです。方形の柱穴から、柱の根元や礎板<sup>そばん</sup>（個別写真は次ページ掲載）が出土しています。興味深いことに、上の写真の柱の下からは軟弱地盤での柱の沈み込みを防ぐための礎板が見つかりませんでした。この建物跡の他の柱穴に見られた礎板がこの部分にはなぜ用いられなかったのかについて、当時の建物構造の復元を視野に入れながら、今後の整理作業を通して明らかにしていきたいと考えています。

## 木製品の分析からわかること

発掘現場から取り上げて来た木製品は、泥を落とした後、乾燥による劣化や変形を抑えるために水漬けのまま埋蔵文化財センターに運び入れます。埋蔵文化財センターには大きな水槽があり、様々な遺跡から出土した木製品を収めています。

野際遺跡の整理作業では、専門機関に依頼して、木製品の实測や樹種同定（材質を特定すること）、年代測定などの自然科学分析を実施しています。



アカガシ製鋤の身部分 ※左が先端  
(長さ 27 cm、幅 14 cm、厚さ 2 cm)  
赤点線は元の状態の推定線

野際遺跡から出土した鋤の樹種同定をおこなったところ、摩耗に強く硬いアカガシが用いられていました。繰り返し地面を掘削するのに適した材質が選択されていたようです。

また、掘立柱建物跡（1 ページ目写真）から出土した、柱の根元と 3 点の礎板も調べたところ、柱は虫に強く耐水性があるヒノキ、礎板は軽く加工しやすいスギが用いられていました。その他の建物では、耐水性に優れ硬いケヤキ、クリ等が柱に用いられていました。それ以外のものとして、中世の漆器椀はクリの木から作られていました。

古墳時代の人々は樹種ごとの特性を知っており、用途に応じて使い分けていたようです。



掘立柱建物のヒノキ製柱  
(左が下面、残存長 51 cm、太さ 25 cm)

また、木製品の年代測定をおこなったところ、掘立柱建物に使用された柱や礎板は、古墳時代（およそ 1,700 年前）に伐採された木材であるということがわかりました。



掘立柱建物のスギ製礎板  
(長さ 38 cm、幅 20 cm、厚さ 6 cm)



クリ製の漆器椀  
(底径 8 cm)

これらの分析を通し、当時の遺跡周辺の自然環境がどのような状況であったのかを明らかにしたいと考えています。また、花粉分析もおこなっていることから、今後はそれらの成果も併せて遺跡周辺の古環境を調べていきます。

## 木製品の保存処理

発掘現場から取り上げてきた木製品は貴重な文化財であり、上記の分析等を実施する以外に、恒久的に適切な状態で保管できるよう化学的な保存処理を施す必要があります。

木製品の材質や状態によって様々な方法が検討されますが、代表的なものとして PEG（ポリエチレングリコール）含浸法があります。これは、水と溶液を入れ替えて、常温でも形を保つようにする方法です。整理作業ではこうした保存処理も実施していますが、処理済の木製品を今後展示会等で皆さんに見ていただけるよう慎重に進めてまいります。



# 展示・イベント開催情報

浜松市美術館で  
展示中

## 「みほとけのキセキⅡ —遠州・三河のしられざる祈り—

現在、浜松市美術館で開催中の上記の企画展にて、磐田市指定文化財の仏像などが展示中です。会場では、通常非公開の仏像・神像や近年の調査で価値が見いだされたものなどを紹介し、遠州・三河に根付いた仏教文化の価値や魅力に迫ります。

日時 12月3日（日）まで **月曜休館**  
9時30分～17時（入場16時30分まで）

場所 浜松市美術館（浜松市中区松城町100の1 浜松城公園内）

観覧料 一般1,400円（各種割引あり）

**磐田市内からの出展**（赤太字市指定文化財）

**岩室伝存仏像群のうち大日如来頭部**（岩室観音堂蔵）、**女神像**（府八幡宮蔵）、**僧形八幡像**（府八幡宮蔵）、**木造千手観音菩薩立像**（定光寺蔵）、遠江国分寺跡出土塑像（埋蔵文化財センター蔵）、大寺院廃寺遺跡出土埴<sup>せんぶつ</sup>仏（埋蔵文化財センター蔵）

市指定  
文化財



頭部のみで一二〇センチ！  
遠州地域屈指の巨像

大日如来頭部



詳しくは、浜松市のホームページ（右二次元コード）をご覧ください。

開催決定

## 国分寺まつりin遠江

国分寺は、奈良時代に聖武天皇が、仏教の力で国が安定することを願い、全国各地に建てた寺院です。遠江国分寺跡は、国分寺としては全国に3箇所しかない国の特別史跡のひとつです。この機会に遠江国分寺跡を訪れてみませんか。

日時 11月11日（土）9時～14時  
（雨天時翌日に順延）

場所 遠江国分寺跡史跡公園（市役所北側）



**礎石&基壇見学ツアー（無料）**

市役所6階からの風景（展望ツアー）令和5年撮影

整備工事中の金堂の礎石を特別に見学！僧房・講堂の復元基壇も解説します。

- ・集合 文化財課テント ・出発時間 9時15分、10時45分、13時15分
- ・所要時間 約40分

**国分寺展望ツアー（無料）**

市役所6階から史跡の全景を一望できる絶好の機会です。

- ・集合 文化財課テント ・出発時間 10時、11時30分 ・所要時間 約40分

このほか、文化財課テントでは遺物の展示やパンフレットを配布します。

主催 国分寺まつり実行委員会

まつりホームページはこちら⇒

問合せ 文化財課事業 電話 0538-32-9699（文化財課）

国分寺まつり 電話 090-9021-1327（実行委員会 今井）

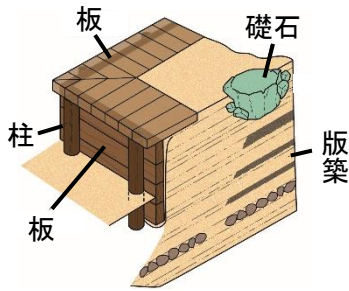


# 埋蔵文化財センター展示品紹介

## 第2回 遠江国分寺跡の塔の土層断面

「埋蔵文化財センター展示品紹介」、第2回は発掘現場からやってきた！？遠江国分寺跡の塔の土層断面を紹介します。

国の特別史跡である遠江国分寺跡は、史跡の再整備に必要な資料を得るために発掘調査をおこなってきました。平成21年度の調査で、塔の基壇が「木装基壇」(※1)であることがわかりました。



木装基壇イメージ図

この展示品は、発掘調査で出てきた塔の基壇の土層断面(実物)をはぎ取ったものです。土層断面からは、木層基壇の板の痕跡や版築(※2)などを見ることができます。また、発掘調査現場でおこなわれた土層断面のはぎ取り作業の解説もあります。ぜひ、ご覧ください。



塔の土層断面



※1 基壇は建物の土台。奈良時代の寺院では、石材や瓦で基壇が外装される事例が多いなか、遠江国分寺は木材が用いられていた。 ※2 地面を固めるために土を叩いて積んだ跡。

●2023年11月1日時点での展示情報です。埋蔵文化財センターについての詳しい情報は、市ホームページの施設ガイド(右二次元コード)をご覧ください。

### 職員リレー コラム

### かつて見付にあった大寺院 蓮光寺

森本 司

夏に、企画展「中世の見付～遠江の中心ミッケ！～」と記念講演会を開催しました。多くの方に来ていただきありがとうございます。鋤柄俊夫先生による講演会「今川了俊と足利義教が見た中世都市見付～一の谷中世墳墓群遺跡の陶磁器に注目して～」は、聴講者から面白かったという声が多く聞かれ、企画担当の私にとってうれしい限りです。

講演会の内容は、遠江守護として見付にいた了俊と、見付を訪れた室町幕府第6代将軍義教が生きた時代の見付を、他の都市と比較し特徴を明らかにしていくものでした。了俊は、九州における幕府の最高職である九州探題も務めた人物で、そんなすごい人が見付に関係していたことに驚きました。また、かつて見付にあった大寺院「蓮光寺」に了俊が発起人となり奉納した梵鐘があったそうです。梵鐘は現在、沼津市の靈山寺にあると聞き、見に行ってきました。高さ97cmと立派なもので、銘文に「奉鑄遠州府中蓮光寺」とありました。奉納は貞治3年(1364)で、県内でも4番目に古いものとして県文化財に指定されています。

現在、蓮光寺があったとされる場所(西坂会館/見付)には、石碑が建っています。立派な梵鐘があった蓮光寺がどのような寺院だったのか、想像が膨らみます。



今川了俊が奉納した梵鐘(沼津市靈山寺)

編集後記 11/8まで福田交流センターにて「元島遺跡出土品展」が開催中です。元島遺跡は県が発掘調査をおこなっており、出土品は約20年ぶりの里帰りです。この機会に是非。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)  
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1  
電話：0538-32-9699

◆WEB版は市HPから閲覧できます。磐田文化財だより

検索